

教 育 目 標

自ら求めて学び、心豊かに、たくましく行動する生徒の育成

1. 学習における生徒の実態・課題

- ① 令和5年度学習に関するアンケート(6月)で課題となる項目【肯定的評価の割合】
- ・家庭学習では、何をしてよいか迷わない 6月33.3% → 3月 %
 - ※家庭学習をすることは負担ではない 6月60.0% → 3月 %
 - ※家庭学習の時間(2 時間未満・塾を除く) 6月85.9% → 3月 %
 - ・話を聞く姿勢ができていない 6月60.0% → 3月 %
 - ・授業中にきちんと返事ができている 6月 53.3% → 3月 %
 - ・わからないところを先生に質問している 6月60.0% → 3月 %
- ② 令和5年度 全国学力・学習状況調査から【全国比】
- ・将来の夢や目標を持っている 70.9%【+4.6%】
 - ・授業以外に 2 時間以上の学習をしている 13.0%【-20.7%】
 - ※2 時間未満 87.1%
 - ・授業では、自分で考え、自分から取り組んでいる 70.9%【-8.3%】
 - ・授業で、P C、タブレットなどの I C T 機器をどの程度使用しましたか 64.6%【+3.5%】
 - ・学校の授業以外に、I C T 機器をどれくらい勉強のために使っていますか 6.5%【+0.5%】

2. 学力向上のための方策

- ① 学ぶ意志と態度を育成する
- ・「あじさいスタンダード」⇒生徒の学ぶ意欲を引き出し、一人一人が分かる授業、一人ひとりを伸ばす授業の実践
 - ・ゴールを見据えた「めあて」の提示
→学習に関するアンケート「授業中は、今何をしているのか(今何をする時間なのか)意識しながら学習に取り組んでいる」(6 月 90.0%)
目標：学校全体の肯定的割合 90%以上の継続
 - ・学習規律の確立「授業四原則」(1 分前着席・あいさつ・返事・聞く姿勢、態度)
⇒**重点目標の教室掲示**
→学習に関するアンケート「授業中にきちんと返事ができている」(6 月 53.3%)「授業中に話を聞く姿勢ができていない」(6 月 60.0%)
目標：学校全体の肯定的割合 80%
- ② 基礎的・基本的な学力の定着を図る
- ・個の状況に応じた、個が伸長する指導⇒**家庭での学習の見直し・改善、I C T 機器の活用(利用)**
 - ・学校図書館、I C T 機器、インターネット等の効果的活用、クロムブック利用率向上(キュービナの利活用推進月間への取組)の実施
→学校評価「先生は電子黒板や書画カメラ、クロムブックなどを使って、授業がわかりやすくなるように工夫している」
目標：学校全体の生徒の肯定的割合 80%以上
 - ・家庭学習の支援を視野に入れた授業(授業の振り返り「わかったタイム」の充実)
 - ・課題の精選 家庭学習の手引き作成及び活用
→学習に関するアンケート「家庭学習が学力向上に役立つと思っている」(6 月 85.1%)
「家庭学習(予習・復習)の仕方が理解できている」(6 月 73.0%)
目標：学校全体の肯定的割合 90%以上
- ③ 思考力・判断力・表現力を育成する⇒**話し合い活動・自分の考えをまとめる場の設定**
- ・「書くこと・話すこと」の重視
 - ・言語活動(表現力)の充実
- ④ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する
- ・個に応じた指導の充実

各教科における課題(◎)と改善策(○)

【全教科共通 重点実践事項】 「基礎学力の定着」と「表現力の育成」

国語 ◎基礎・基本の定着が不十分である。 ◎「書く力」が不足している。 ◎資料等から「情報を読み取る力」、「その情報を扱う力」の育成が必要である。 ○授業で小テストを行ったり、キュピナを活用したりと、漢字・文法などの知識の定着を図る。 ○グラフや表などが使用された文章教材を積極的に用いて、内容を読み取る活動を行う。 ○根拠を明確にして、適切な意見を書くこと、話すことを徹底させる。	社会 ◎基本的な事項の理解が不十分である。 ○3年生：キュピナを活用して、受験に向けての基本的な事項を復習、確認する。 ○ワークの繰り返しで、基本的な事項を徹底的に身につけさせる。 ○映像や動画、資料、ニュースなどを視聴し、社会科に興味を持たせたい。	数学 ◎問題に書かれていることを読み取る力が弱い。 ○授業で大切な事項の復唱や授業のポイントを適時、振り返る。 ○図や表、式、グラフを関連させながら問題解決させる。 ○問題解決の見通しを立て、解決に用いる手段や考え方を明確にする ・教え合い、学び合う時間を設定し、問題解決に向かう意欲を高める
理科 ◎観察・実験の課題が一人一人の課題になっていないため、自律的な学習として取り組めていない。 ○一人1台端末を有効活用した授業を仕組む。 ○問題演習や小テストをキュピナを活用して授業の中に位置づけ、基礎基本を徹底する。	音楽 ◎歌唱表現に苦手意識があったり、基礎・基本の定着が不十分だったりする生徒がいる。 ○自己評価表やクロムブックを活用しながら、生徒の状況に応じて指導していく。	美術 ◎基礎・基本の定着が不十分で、創造的な発想や表現を苦手として積極性に乏しい生徒がいる。 ○学習用具の連絡を徹底し、忘れ物ゼロを徹底する。 ○「めあて」を確認し、どこに注目したらよいか、要点をおさえさせる。 ○作品や用具の保管を徹底させる。
保健体育 ◎一つ一つの運動課題の取組が雑である。 ○運動の行い方や効果を確認しながら取り組ませる。 ○グループ活動や話し合い、ペアを組んでの観察やアドバイスの機会を多くとり入れる。	技術・家庭 技術 ◎身の回りの事象を多角的に評価することができない。 ○情報を広く取り入れ、複数の視点で評価させる。 家庭 ◎問題を見出し改善する力、またそれを言葉で表現する力が不足している。 ○授業の最後に振り返りの時間を設定し、学んだことや次回への課題を具体的に書かせ、次時の授業に備える。	英語 ◎全体的に英語への興味・関心が低く、基礎・基本の定着が不十分である。 ○ALTとの授業などを通して、英語がわかる喜びや伝わる楽しさを実感させる。 ○理解から活用につなげ、ペアやグループ活動などで英語を使う機会を増やす。 ○小テストの実施や生徒用デジタル教科書及びキュピナを活用し、英単語や語順、文法など学習内容の定着を図る。